

股関節疾患への作業療法

特集にあたって

私がOTになったころ、急性期病院においては、OTは上肢、PTが下肢という漠然とした慣習が強く残っていた。新人のころは、作業を通じての患者主体の治療というものを模索する中で、下肢の機能解剖や手術的治療の理解を弱点としていたことを覚えている。

今回、股関節疾患の中でも、変形性股関節症、大腿骨近位部骨折に焦点を当て、そのメカニズムや手術の特徴、そして執刀医である医師の方針や考えを理解することを目的とした特集を組んだ。それらの機能的意味合いを理解することで、作業や活動の細かな分析に活かし、OTとしての治療を、根拠をもちながら進めていく一助となることを期待している。

林先生には、股関節周囲の機能・解剖を、OTがもつべき視点に焦点を当てながら、生理学的な根拠の基に詳しく解説をいただいた。大隈先生、畠山先生には、診療ガイドラインを基に、その特徴や手術方法を医師の視点で、鋭く論理的な解説をいただいた。

そして私を含む3人のOTにより、心身への寄り添い方、リスク管理、訓練、禁忌肢位と対応、具体的アプローチの事例等、実践的なかわりを紹介している。さまざまなかたちの作業療法があることを理解するとともに、患者の個別性に応じたりハが提供できるように活用していただけたら幸いである。

(末永健一)

企画担当

末永健一 (福岡新水巻病院, 作業療法士)

中村春基 (日本作業療法士協会, 会長・作業療法士)

竹内さをり (甲南女子大学, 作業療法士)